

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

音楽によるまちづくりを創造する活動拠点施設整備計画

2 地域再生計画の作成主体の名称

和歌山県

3 地域再生計画の区域

和歌山県の全域

4 地域再生計画の目標

4-1 地方創生の実現における構造的な課題

澤和樹氏（東京藝術大学学長）をはじめ和歌山県出身の音楽家の皆さんが中心となり、地元企業が協賛し、民間の力のみで企画・運営された「きのくに音楽祭」が今年度第1回（10月3日から10月6日までの4日間）としてメディア・アート・ホールを中心に和歌山城や和歌の浦等を会場に開催され、来年以降も毎年開催される。しかし、和歌山県には、演奏家と聴衆がともに本格的に音楽の喜び、楽しみを分かち合う場が少なく、メイン会場のメディア・アート・ホールについても、ステージと客席が近く、演奏者と観客が一体となれる施設として評価はされているが、一般的なホールに比べ、反射音の数が少なく、振幅の幅も小さいため、演奏者から自分自身の演奏音が確認しづらいとの声があり、観客からもエコーが響いているとの声があることから改修する必要がある。

4-2 地方創生として目指す将来像

【概要】

和歌山は元来、能や踊り、民謡やカラオケに親しむ人がたくさんおり、音楽を楽しむ愛好家が多数います。その一方で音楽等文化芸術を楽しめる施設が充実しているとは言えないのが現状です。その様な中で、メディア・アート・ホールでは、文化芸術に親しむ機会の創出や県民の文化芸術活動への参加を促進するため、本格的な演奏会や県内音楽関係者に演奏会の機会の提供を進めてま

いりました。今年度から県民の生活や人生を音楽というアートで豊かにすることを目標に、県内の音楽愛好家等の協力を得て、県内初の洋楽と邦楽による音楽の祭典「きのくに音楽祭」を開始、県内音楽家への演奏機会と本格的な音楽演奏を気軽に聴く機会を提供することで、子供の頃から音楽にふれ親しみ、人生において文化芸術に親しんでいく人材の育成と機会の提供を図る事を目指して、今後もメディア・アート・ホールを主会場に継続して開催し、県内各施設と連携しての取組として、発展開催を目指していきます。

また、県立図書館では、徳川頼貞氏が心血を注いで収集したコレクションを保管した日本近代音楽史上に輝く南葵（なんき）音楽文庫が2020年2月にグランドオープンを迎えます。2021年には第36回国民文化祭、第21回全国障害者芸術・文化祭、第45回全国高等学校総合文化祭が和歌山県で開催され、それぞれの会場としてメディア・アート・ホールが活用されます。

しかしながら、一般的なホールに比べ、反射音の数が少なく、振幅の幅も小さいため、演奏者から自分自身の演奏音が確認しづらいとの声や、観客からもエコーが響いているとの声など演奏家、聴衆に満足いく場を提供できていない現状です。県全体で芸術の祭典等気運が高まるなか、今後もメディア・アート・ホールが、より文化芸術に親しむ機会の創出や県民の文化芸術活動の場として求められることとなります。このような背景の中、県民一人一人が豊かな生活を送るための選択肢の1つとなる様、和歌山の文化力の向上をサポートできる充実した施設であることを目指しています。

【数値目標】

K P I	事業開始前 (現時点)	2020年度増加分 1年目	2021年度増加分 2年目
メディア・アート・ホール利用者数（演奏会）（人）	6,066	0	400
演奏会等開催による使用料収入（万円）	474	0	100
東京藝術大学教授等から指導を受けた人数（人）	15	0	15

2022年度増加分 3年目	2023年度増加分 4年目	2024年度増加分 5年目	K P I 増加分 の累計
400	400	400	1,600
50	50	50	250
15	15	15	60

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

5-2の③及び5-3のとおり。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

○ 地方創生拠点整備交付金（内閣府）：【A3007（拠点整備）】

① 事業主体

2に同じ。

② 事業の名称

音楽によるまちづくりを創造する活動拠点施設整備

③ 事業の内容

和歌山県立図書館内のメディア・アート・ホールの音響改修工事を行い、演奏者の音色を効果的に客席に伝えられる様にステージ天井及び背面の音響反射板を改修するとともに、ホール内の音の伝わり方を最適な状態に調整するために欠かせないホール壁面の音響パネルを改修することで、計画する音響特性を実現する。音響改修工事を行うことで、利用者の満足度向上に繋がり、利用率の向上及びさらなる質の高い音楽・演奏会を実施することで、施設使用収入の増加を図る。

④ 事業が先導的であると認められる理由

【自立性】

演奏会開催及び次世代指導に使用するメディア・アート・ホールの維持管理必要経費は650万円/年であるが、演奏会等開催による使用料収入（700万円/年）を見込んでおり、自立した運営を行っていく。

【官民協働】

施設整備を行うことで、メディア・アート・ホールを文化芸術の中核拠

点として、市町村・社会教育関係機関・NPO等と連携を図りながら、質の高い文化芸術の鑑賞機会の提供や、東京藝術大学と連携したアウトリーチの指導による人材育成及び次世代の音楽愛好家の育成につなげ音楽とおした芸術文化に親しむ環境の整備を目指す。また、「きのくに音楽祭」では、「きのくに音楽祭実行委員会」を組織し、産官学金が連携し、企業が資金を出し合い、行政に頼らない民間中心の企画・運営を行っており、今後も、官民が連携したまちづくりを行う。

【政策間連携】

第36回国民文化祭、第21回全国障害者芸術・文化祭、第45回全国高等学校総合文化祭に会場を提供することで県外からの利用者にメディア・アート・ホールをPRするとともに世界遺産、温泉、グルメ等の情報誌によって、和歌山県の魅力を発信する。また、南葵（なんき）音楽文庫の講座に演奏会を取り入れることでさらなる周知啓発に取り組む。東京藝術大学との連携講座等による人材育成及び次世代の音楽愛好家の育成の場として会場を提供し、地域人材育成及び地域観光活性化につなげる。

【地域間連携】

今年度から開始した「きのくに音楽祭」の開催地は、現在和歌山市のみであるが、さらに多くの演奏会の企画を実施するために、県内市町村と連携を行い、海南市、有田市、田辺市等の文化ホールでも「きのくに音楽祭」を実施する。さらに、機能向上を図った当ホールを近隣市町村も使用することで多くの芸術祭典が開催され、県民が芸術に触れやすい文化に親しむ機会をつくることができる。

⑤ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））

4-2の【数値目標】に同じ。

⑥ 評価の方法、時期及び体制

【検証方法】

毎年度5月に産学金の外部有識者による評価委員会で検証を実施し、目標値に届かない場合は事業内容の見直しを実施。

【外部組織の参画者】

- ・（一財）和歌山社会経済研究所 専務理事
- ・近畿大学生物理工学部 生命情報工学科教授
- ・（株）紀陽銀行 営業支援本部長

【検証結果の公表の方法】

検証結果は、ホームページで公表する。

⑦ 交付対象事業に要する経費

- ・ 法第5条第4項第1号イに関する事業【A3007】

総事業費 26,249千円

⑧ 事業実施期間

地域再生計画の認定の日から2025年3月31日まで

⑨ その他必要な事項

特になし。

5-3 その他の事業

5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし。

5-3-2 支援措置によらない独自の取組

(1) 文化情報センター運営事業

ア 事業概要

自主活動の支援及び活動・交流の場の提供を行うなど、県民の生涯学習活動を支援する。

イ 事業実施主体

和歌山県

ウ 事業実施期間

2020年4月1日から2025年3月31日まで

(2) 南葵音楽文庫事業

ア 事業概要

寄託された紀州徳川家ゆかりの南葵音楽文庫を活用した啓発・普及活動

等を行う。

イ 事業実施主体

和歌山県

ウ 事業実施期間

2020年4月1日から2025年3月31日まで

6 計画期間

地域再生計画の認定の日から2025年3月31日まで

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

7-1 目標の達成状況に係る評価の手法

5-2の⑥の【検証方法】及び【外部組織の参画者】に同じ。

7-2 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容

4-2に掲げる目標について、7-1に掲げる評価の手法により行う。

7-3 目標の達成状況に係る評価の公表の手法

5-2の⑥の【検証結果の公表の方法】に同じ。